

グループホームさつき

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） 取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	17	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	3	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昔ながらの日本家屋のたたずまいを活かし、「かつての懐かしい暮らしを生活の端々に思い起こせるような環境づくり」のために坪庭や植栽、板塀、石灯籠などの造作を整えている。「我が家から普通に外出する」雰囲気を尊重して、気軽に近くのスーパーで買物したり、子ども達の声を聞きに保育園まで散歩したり、町内の祭りに参加したりしている。	1	ホーム内で作ったクラフト品の布ぞうりを保育園のバザーに出品して好評を博しているがそれ以外にも近くのショップで店頭においてもらうなど協力の輪を広げていきたい。
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「今この瞬間を一番輝かしく生きて欲しい」という理念の下に、「もう出来ないこと」よりも「まだ出来ること」に着目し、それぞれのレベルに合った共同生活への参加の仕方を工夫している。食材の買出し、調理の手伝い食卓の準備、洗濯物たたみ、縫い物、庭の草取り、水やりなど生活の実際の場面で多種多様な「仕事」の場面を作っている。	1	生活能力の低下とともに次第に出来ることが少なくなってくるのが予想されるが、それでも何らかの形で共同生活の中にその人の存在意義を見出すために方策をさぐる必要があると考える。
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「たとえ認知症になっても、人間でなくなる訳ではない」という認識に立ち、近隣の人と行き交う、子どもたちの姿を目にするなど、出来るだけ自然に自分が住んでいる場所になじんでいけるような周囲との関係作りをしている。全員が一律に外に出ることは事実上無理だがホームでの生活が安定した後はなるべく内に閉じこもらないように配慮している。	1	まだ認知症に対する理解不足やそれから来る偏見のようなものが皆無とは居えない現状から、外に出かけていくことも大事だが中でのどのような生活を送っているかをプライバシーに配慮しながら外部関係者に伝えていく方法を研究すべきと考える。
		2	地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	2	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開所から5年目に入り、ようやく自然な形で「グループホームさつき」の名が近隣の人々の口の上ようになってきた。近在のスタッフを雇用したり、近くの魚屋から鮮魚を仕入れたり、地元のスーパーへ買物に出かけたりと職員が日常的に地域に溶け込もうと地道に努力している。通りがかりの人から「ボランティアにきたい」という声も寄せられた。	1	若い人、とくに学生や生徒たちが社会勉強のためにグループホームというものに興味を抱いてボランティアなどの形で入ってくるような働きかけが必要だろう。
		5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム敷地内で行う町内会の夏休みラジオ体操はすでに4年目を数え、近くの団地夏祭りへは毎年招待され盆踊りにも参加している。利用者の認知症状の段階により世間との交流には限界があり、健康者のように無条件に参加する訳にはいかないが、可能な範囲で地域に出かけていくように努めている。	1	地域への取り組みは徐々に成果を上げてきているとはいえ、まだ十分とはいえない。今後はホームの行事に誘ったり、ボランティアを積極的に募ったりしてより地域に溶け込んだ施設を目指したい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームが「地域の高齢者に役立つこと」を話し合い実践すべきとする論拠が明らかでないが、経営的に許される職員数でもって利用者を最優先しその生活の質の向上と日常生活支援に全精力を注いでいる現状からは、例えば職員増員に伴う経済的支援（大幅な介護報酬の増額）が担保されない限り地域の高齢者に役に立つだけの余裕はない。	0	本質的事項の妥当性は何をもって担保されるのか。疑義を呈する。
	3		理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	5	
	7	4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護サービスの提供を目的とする極小規模のグループホームではややもすれば閉鎖的で自己満足に陥りがちな嫌いがあるので常に自己チェックと研修活動、第三者の眼が欠かせない。日常のミーティングや職員会議、計画会議で問題点の洗い出しと改善策の策定を通じてより良い介護への実現に取り組んでいる。	1	多忙を極める日常業務の合間を縫って研修活動を行うのは容易ではないが、個人の生涯学習の意味でも地道に研鑽に励んでいきたい。
	8	5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ファシリテーター専門職としての地域包括支援センターの視点と地域密着の生活者としての民生児童委員の視点を交えながら、医療関係者の助言や指導も取り入れることで、小規模グループホームならではの介護と看護のバランスの取れた認知症対応型のきめ細かい生活サービスの提供に努めている。	1	運営推進会議の意義をもう一度根本に立ち返り再認識して「地域と共に歩むホーム」となるために何をすべきか考えていきたい。
	9	6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福岡市介護保険事業者協議会の正会員として研修会や講習会に参加することでスタッフの質の向上に役立っているが、さらに機会多く参加し併せて同業者との情報交換を通じてよりよいサービス実現の一助と出来ればよいと考えている。	1	ホームでの活動を地域センターや行政担当者に知らしめるためもっと広報活動に力を入れていきたい。
	10	7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護は研修を通じて一般的に学習する機会はあるが、実際に体験することが稀なのでなかなか現実問題として捉えにくい。以前、ある利用者が資産の問題で親族間に争いが生じた結果、司法書士が成年後見人として関係者間の調整の実務を担当したことがあったがその過程をつぶさに実見する機会を得られたのは得難い貴重な経験であった。	1	より一層研修の機会を設けていきたい。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活を送る上で通常の生活動作に伴う危険を排除する、もしくは防止する観点から一時的に行動を制限することはあるが、一般的な意味での「虐待」は決してあってはならないという統一された認識で全職員が職務にあたっている。	1	より一層研修の機会を設けていきたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	3	
理念に基づき 運営	理念を 実践す るた めの 体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	体験入居を経て本人・家族の納得の上、本契約を交わす場合は、十分その内容を説明し、些細な不安や疑問でも説明を尽くし理解を求めている。また極力家族の経済的負担を軽減する目的から、体験入居時の費用も本入居になった場合は、さかのぼって介護保険の適用が可能になるように配慮している。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思澄明な利用者からは常に意見や要望を聞き出し、意思表出が困難な利用者はスタッフが想像力を駆使し果たして現状に満足しているかを常に考えサービスに反映するようにしている。「自立の尊重」を損なわないようにあくまでも生きる主体は利用者本人であるという認識から「自ら出来ることを奪わない」ことを最優先している。	0	
		14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個別の「生活状況月例報告書」の送付によって看・介護面の様子を詳細に説明し、ホームと家族を橋渡しするコミュニケーション手段の一つとしている。同時に送付する「さつきだより（ホーム通信）」は通算50号を数え、ホーム行事、季節の模様、日々の様子を交えながら「さつきアルバム」で利用者の暮らしの様子を写真入りで伝えている。	1	「生活状況月例報告書」も「さつきだより（ホーム通信）」も一定の成果を上げてきているので、今後は家族の声を積極的に紙面に取り上げるなどより一層充実した内容になるよう取り組んでいきたい。
	15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前項の「生活状況月例報告書」の他に家族に対しては日常的にこまめに電話連絡、報告等を行うことで、利用者の介護計画を一貫したものとして実行するために、ホームと家族と意思の疎通を図り、家族からは面会や電話の際に気軽に要望や意見を出してもらうように働きかけしている。	1	一堂に会しての家族会は個々の家庭の事情から事実上困難なのでさらにきめ細かく個別に意見や要望を聞き取り具体的にサービスに反映するように努める。	
	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の職員会議では個々の利用者のケース検討の時間を設け、介護計画が実行できているか、実情に即しているか、新たな検討事項はないか、など職員間で自由に討議するようにしている。またその場で決定、変更された介護方針は全員が認識を共有し日常のサービス提供に反映するようにしている。	1	フランクに職員間で意見を言い合えるような雰囲気作りは今後も必要と考える。	
	17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	標記の項目は具体性に欠けるが「契約以外の要望に対応するために増員や残業すること」を指すとすれば実態乖離と言わざるを得ない。介護報酬内で職員配置を遵守し同時に職員の労働環境に配慮し、その中でいかに内容あるサービスを提供できるかに腐心しているのが現状であり、一方的に経営側に犠牲を強いるサービスの上乗せには納得できない。	0	本質問事項の妥当性は何をもって担保されるのか。疑義を呈する。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づき運営	4 理 念 の 実 践 制	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は百パーセント運営する側の裁量の問題であり、利用者に奴隷のように仕えるために職員の自己実現の人生設計まで制限する思考には与しない。利用者のより良い生活環境の実現のためにはすでに職員配置を含め十分に配慮している現状からは、むしろ働く者が昇格や転職を通じていかに自己研鑽を図っていくかの視点こそ重要である。	0	本質問事項の妥当性は何をもって担保されるのか。疑義を呈する。
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	4	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	標記の前半部については、介護に職を志す者に基本的に求められるのは人間に対する寛解さと誠実さのみで性別や年齢等は一切採用の要件としない。後半部については前項の標記内容と著しい矛盾を認めざるを得ない。福祉施設を運営しそこに働く場を提供すればこそ個々の職員がその能力を十分に發揮できるよう支援するのが経営の社会的使命と考える。	0	本質問事項後半部の妥当性は何をもって担保されるのか。疑義を呈する。
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「人権弱者」とされる高齢者、とくに認知症者に対しては、よほど支援者が意識して厳格な人権感覚を身につけなければ結果的に利用者の人間性を疎外することになりかねない。外部研修会には出来るだけ参加しているが、現場の実情に疎い論者の開陳する内容には鼻白むのものがあるのも実情である。	1	より一層研修の機会を設けていきたい。
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一般介護職から介護福祉士、介護支援専門員とステップアップを遂げた職員がいるが、本人の努力と支援体制の成果と自負する。一方で高度な専門職としてわずか数名の利用者の介護計画を作成するだけが本人にとってやりがいのある仕事なのか、グループホームにケアマネを義務付けた制度にも疑問点が残る。	0	従来どおり一個の人間として職員の人生設計や自己実現には会社として可能な限り支援していく考えである。
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ややもすれば閉鎖的、自己満足的になりがちな福祉の現場であればなおさら他所との交流が望ましい。むしろグループホーム以外にデイサービス、宅老所、ヘルパー事業所など地域に関連する福祉サービスの連絡会のようなものがあればより一層よいと思われる。	1	同業他者をもっと交流があつていいと思うが日常の業務に取り紛れて疎かになっているようなので、意識してそのような環境づくりに取り組んでいきたい。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	サービスの提供者と受け手がごく稠密な関係で結ばれるグループホームに固有の労働環境の特異性に根ざして、そこで働く職員には通常以上の精神的また肉体的ストレスが著明である。その負担を軽減するためにはまず十分な休養(休日)を与え、時間外は月1回の職員会議(2時間)のみとしている。	1	職員の心身のストレスの緩和のためにはスーパーバイザー的な存在が必要であると痛感している。今後の課題としてそのようなリスクマネジメントにも取り組んでいきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤怠状況をはじめ研修状況、福祉に対する考え、認知症に対する理解等、自己採点と他者による客観的評価の双方から評価を行っている。	1	減点方式よりもむしろサービス向上のための様々な提言を評価の対象としていきたい。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価 10項目・外部評価 2項目	9	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)		自己評価 4項目・外部評価 1項目	4	
		25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の、とくに初期にはまだ自意識が澄明で自覚症状をもつまでに至っていないケースが多い。「何で出来なくなったのか」「何で忘れてしまうのか」と様々な自己を責め悩むのもこの時期である。そのような利用者には「何が不安なのか」「どのようにして欲しいのか」を時間をかけて傾聴しながら訴えの背景にあるものまで掘り下げるようにしている。	1	利用者本人から傾聴することがややもすれば惰性的になる嫌があるので、時間をかけて意識したきめ細かい個人対応するよう心がけていきたい。
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭介護に限界を覚えて相談する場合、病院から次の居場所を指示されて来所する場合、様々なケースに共通していえることは「家族のぎりぎりの思いを分って欲しい」ということに尽きる。とくに種々の社会的資源に不案内な家族ほど袋小路に迷い込んでいることが多いので、どのような手立てがあるのかを共に考えるようにしている。	1	家族とは打ち解けるまでが時間を要するが、辛抱強く時間をかけながら真の支援策が何なのか見出す努力を重ねていきたい。
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の診断を目の前にした利用者と家族に大切なことは「認知症を正しく認識すること」「決して過小に、また過大に考えないこと」である。これまでの来歴に照らして今必要なこと、そのうち今出来ることについて協力しながら取り組んで行くように助言し、決して利用者と家族が孤立してしまわないように支援している。	1	グループホームですべての問題が解決する訳ではないので、他の社会資源を含めて広く支援のネットワークを構築する視点を持ち続けたい。
		28 外部 評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	本入居に先立って必ず1～数泊の体験入居を勧めている。中の雰囲気を実際に体験することでグループホームというものの生の姿を実感していただくとともに、他利用者やその家族の声にも接することも出来る。入居後の家族の面会や外出についても家族と意見調整しながら利用者本人が可能な限り納得して入居できるように取り組んでいる。	1	入居当所のいわゆる帰宅願望に対しては臨機応変に接しているが、もっと認知症独特の精神症状とその現れ方について柔軟に対応できるように様々に対処方法を研究していきたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)				自己評価 6項目・外部評価 1項目	5	
係り 2 継 続 こ れ ま で の 支 援 係 開 く	29 外 部 評 価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	まだ日常生活能力が部分的に残されているレベルの方には、いっしょに生活する仲間としての職員に対して往年の家事や子育て等について思い出話の中で披露できるような雰囲気作りを行っている。流行の「布ぞうり」を作るときは昔のわらでできたぞうりの話など若い職員の子育ての話題のときは若い頃の苦労話など話してもらっている。	1	声かけが特定の利用者に集中することのないように、満遍なく気配りの出来るような職員サイドの「心のゆとり」も必要と考える。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と真に打ち解け合わない内は建前で話されることが多く認知症と認めることさえ拒否されることもあるが、根気強く働きかけることで、家族ならではの辛さ、無念さ、焦りなど本心を打ち明けられるようになる。家族に出来ること、ホームに出来ること、互いの思いをぶつけ合いながら利用者本人にとって最善となる支援の仕方を見つけるようにしている。	1	家族とは今以上に心を通い合わせて、いずれ来るであろう最期の時には「精一杯尽くして上げられた」との思いを共有できるようになりたい。
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	親子、夫婦、兄弟姉妹、様々な家族史の結果として要介護に至ったケースがほとんどなので、これまでどのような家族関係を営んできたか、その結果いまだどのような状況にあるかを極力詳細に把握し、「今この瞬間をいかに人間らしく生きることが出来るか」という観点から、残された人生をなるべく悔いのないよう過ごしていただくように努めている。	1	徐々に家族の顔も認識しづらくなっていく過程で、最後まで心の深奥部で結ばれた親子の情愛を支援できるように努力したい。
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	たとえ現在の新しい記憶が苦手でも、反対に過去の記憶が鮮明にその姿をとどめている認知症特有の症状に照らして、大切な思い出の中に恐らくは今でもしっかり息づいているであろう人や場所、ものはことある毎に話しの中で話題として触れたり、アルバムを開いたり、唱歌を口ずさんたりすることで今でも確かな絆を保てるように取り組んでいる。	1	昔住んでいた思い出の場所に連れて行ってあげるなど、ホーム外での支援活動も考えられてよい。
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性と人間関係を把握し集団の中で「居心地がいい」と感じられるようにそれぞれのレベルに合わせた役割を演出するように心がけている。「食事の手伝い、買物、洗濯物たたみ、モップかけ」「ゲーム、歌、塗り絵、縫い物」「みんなの話し声を聞いている、うたた寝する」など。その中で互いを意識し合う穏やかな関係を作り上げている。	1	利用者同士のコミュニケーション方法が限られている中でも、「なんとなく分かり合えたような雰囲気」を大切にしていきたい。
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	認知症が重篤化し精神科へ転院となったケースでは、折をみて病院見舞いに訪れて様子を見たり家族と情報交換する機会がある。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (自己 35~51・外部 17~22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目	13	
1 一人ひとりの把握(自己 35~37・外部 17)				自己評価 3項目・外部評価 1項目	3	
1	35 外部 評価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		入居時の家族や支援者からの聞き取り、その後の利用者本人との関わりの中で「このように過ごしたい」や「ここが気がかり」という様々な思いを出来る限り掘り起こし日常生活の支援に活かすようにしている。言葉による表現が難しい利用者に関しては表情や態度によって判断し、本人が一番負担が少ない方法で過ごせるように対応している。	1	ある程度入居から時間が過ぎると利用者対応がつい安逸に流れがちだが、あくまでも生活の主体は本人であるという認識に立ち返りながら、今いちばん必要なことは何かを常に念頭に置くようにしたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	青年期、結婚、子育てから、配偶者との死別や独居を経てグループホームへの入居までは様々な人生経験をたどってきている。在宅での暮らし、支援者との関わり、社会的サービス利用の成果等を調べて、グループホームという「人為的在宅生活」になるべくスムーズに移行できるように物心両面からのサポートをしている。	1	案外知られていない本人の人生の細かなエピソードを職員間で共有することに努め、言葉かけの合間合間にそれらを活かすようにしていきたい。
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	認知症に加えて、ほとんどの利用者が高齢者特有の外科、内科的疾患を持つが、心身面の日内変動を含めて日々の健康管理データをもとに、今の状態に最も適した無理のない生活が出来るよう「静養すべきときは静養する」「活動すべきときは活動する」というように個人のペースを優先させて個別に対応している。	1	それぞれの認知症の高度化に伴って共同生活が困難になることも想定されるが「一緒に暮らす」ということを広義にとらえ「あの人がいることがみんなの支えになっている」という場を作り上げる努力も必要かと考える。
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	3		
	2 介護計画がより良く暮らし続けるための作成と見直し	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス提供の裏づけとなる「介護計画」は本人、家族、ホームとの間で協議、調整、作成し更新時には契約者家族に詳細に説明し了解していただいている。それ以外に家族には面会時に必要に応じて随時近況報告を行い、家族からの要望を聞いて臨機応変に介護計画に反映していくようにしている。	1	「介護計画」を表の顔とすれば、日常の接し方とその成果を記録する「ケース記録」を裏の顔、もしくはより一層現実に近い顔と捉え記録内容を詳細に把握することできめ細かいサービス提供につなげていきたいと考える。
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画運用の間には急激に状態が変化することも十分あるので、そのような場合は本人や家族に相談し、かかりつけ医師からの情報も交え、管理者、計画作成者を中心に朝、夕のミーティング時に職員で話し合い、新たな対応策を取るようし、一定期間の後にその評価を行い、一連のサービス体系の微調整に役立てている。	1	「介護計画」と聞くと大半の家族が身構えてしまうが、面会時の雑談や電話での話で得られた家族の生の声も広い意味での「介護計画への意見」と考え、会議等で職員間で共有し臨機応変に計画の運用に反映するようにしていきたい。
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合的な介護日誌（ホーム記録）に日々の全体の様子と要観察者の要点を記録する以外に利用者個人ごとに「ケース記録」を作成し、日勤帯、夜勤帯に分けて詳細に行動、状態等の観察記録をつけている。ケース記録は全職員が閲覧し意見交換やサービス内容の変更、介護計画の見直し等につなげている。	1	介護日誌、ケース記録の他に、入浴、排泄、食量なども記載するバイタル表なども十分に活用しながら、利用者本人を一人の生活者として全体的に捉える観点を保持するようにしていきたい。
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	1		
	3 柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームにおける「事業所の多機能性」の定義が不明だが「利用者個々のレベルに多種多様に応じる機能」と解釈した場合は、活発で行動的な利用者には買物、散歩、ドライブ等、積極的に戸外活動を取り入れ、心身機能の緩慢な利用者には激しい活動は無理強いせず静養や休憩など「人の居る雰囲気の中での安らぎ」を提供している。	1	家族によっては活発な日常活動よりもとにかく「目立って何もないが心配なく穏やかで静かな生活」を望んでいるケースもあるので、一律に共同生活と捉えるのではなく個別に根本で何を望んでいるのかを掘り起こす努力をすべきと考える。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いき きたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価 10項目・外部評価 2項目	6	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の保育園との交流では、園児たちの訪問時にはお遊戯や歌の披露で心慰められるひと時を過ごし、クリスマス会への招待では乳幼児にじかに接する機会を得て活気ある暮らしの一助になっている。ただし大半の利用者はホーム内での安定した生活を送るのが最優先課題で、強いて言えば高度認知症者対象のデイサービス利用が可能であれば考える。	1	今後は地域の「眼」がもっとグループホームへ向くように様々な働きかけが必要になってくると考える。
	4	43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	前項との関連で、グループホームは外部サービスの利用が算定対象外となっている現状から、施設が費用負担してまでも利用者に外部サービスを提供するのは事実上、経営面で出来ない。試みに近くの公民館の子育て見守りサークルに参加してみたが、活動内容が一般成人向けで認知症高齢者には向かなかった。手芸サークルも高度すぎて無理だった。	0	本質問事項の妥当性は何をもって担保されるのか。疑義を呈する。
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの活動がまだ緒に就いたばかりで、当該担当者もまだ手探りの状況にある今、ホームとセンターとの協働は今後将来にわたって作り上げていくものと考えられる。	1	今後の活動案としては地域包括支援センターがホームにおいて本人や家族に対してサービスの満足度を聞き取りしたり、ホームからセンターでの認知症介護の相談会に参加したりする方法があるだろう。
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月往診する近医と精神科専門病院をホームの主な協力医療機関としているが、利用者の在宅のときからのかかりつけ医師があれば継続して情報交換している。実際は緊急以外の受診や投薬はホームが家族に代わり対応している関係から、前述の協力医療機関を希望する家族が大半である。	1	グループホームでの「医療支援」がどの程度まで要請されているか現行制度では明確ではないが、当事業所は前回外部評価時に下された「往診等の過剰な医療サービスは不要」との批判にもめげず、往診実施や受診対応、服薬管理、健康チェック等内容ある介護の裏づけとなる看護支援体制をとっている。
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	前項の往診の近医が利用者の日常的な健康管理を、また精神科外来が専門的な認知症の診断や治療を、というようにレベルに合わせて担当わけをしている。ことに精神科の副院長が利用者の症状をすべて把握していることから本人、家族、職員の認知症に関する相談窓口となっている。	1	全職員が認知症の学習については鋭意継続的に取り組んでいくべきと考える。
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	認知症対応の必要性から当ホームは開所以来、介護面だけでなく看護面での利用者サービスに取り組んできた。管理者は常勤看護師で認知症看護に関して20年以上の経験があり、業務として日常健康管理、特変時対応、家族への症状報告の他に職員の看護面の教育や指導、その他多岐にわたってホームの健康管理と医療活用の中心的役割を担っている。	1	職員間で看護知識の適正な涵養が必要と考える

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には看護添書を病院へ送付すると同時に先方の医師、師長、医療相談員と詳細に情報交換を行い急激な環境変化のダメージを最小限に留めるよう配慮している。ホームでの生活の再開を前提に、早期退院を含めて事前にシミュレーションを行い可能な限りスムーズに復帰できるように支援している。	0	
		49	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時には職員で対応可能な間はホームでの生活を保証すること、最期が差し迫ったら救急搬送することを説明している。ホーム内で最期まで看取るのが理想であるという考え方が一方にあるが、医療器具もない、併設の医療機関もない、医師も常駐しないグループホームにおいては次善策として専門医療に委ねるのが賢明で現実的な手段だと考える。	1	今後終末期の対応は喫緊の課題として扱わなければならない。早急に具体的に取り組むべきと考える。
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現行の介護報酬体系内で判断するに「できること」は人間的尊厳に基づいて清潔で安心できる生活を構築すること、「できないこと」はそれ以上の終末期医療や見取りのための手厚いサービス。かかりつけ医の往診の下、日常的に健康管理を徹底しているのが良心的経営で、標記のような支援内容は具体的なインセンティブのない限り理想論である。	0	本質事項の妥当性は何をもって担保されるのか。疑義を呈する。
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから在宅へというのはきわめて稀なケースで、大半は精神科へ入院するか、もしくは内科的な療養に移るかの何れかである。その際にも十分な看護情報の提供を行い、本人、家族、医師はもちろぬ、相談員やケアマネジャーを交えて生活環境が円滑に移行できるように支援している。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	20	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	16	
		(1)	一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	3	
		52	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「認知症になっても感情や誇りは鮮明に残っている」との認識から個人の尊厳とプライドの尊重を第一に対応しているが、懇懇無礼にならないように時には「おかあさん、お願いね」「じいちゃん、元気？」等親しみを込めた呼びかけも交えながら接するようにしている。個人情報は厳重に管理しプライバシーがみだりに外部に漏れないようにしている。	1	利用者対応が決して自己満足に終わらないように常に初心に立ち返ってみることが必要と考える。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をして	本人の主観的世界に想像力を働かせてその思いや希望を表出できるように促したり、レベルにあった言葉をかけたりしているが決してぞんざいに扱うのではなく人生の先輩として尊敬の念を忘れずに接するようにしている。「頑固さ」「執着心」も健全な精神活動の表れととらえ否定しないようにしている。	1	回想法やバリデーション法など新しい方法にも取り組んでいきたい。		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の利点を活かし、利用者の状態に合わせて例えば昼食は手巻き寿司にするかサンドイッチにするか、午後は外出するか静養するかなど臨機応変に対応するようにしている。また一律に団体行動するのではなく、散歩する人、昼寝する人というように好みの過ごし方が出来るように柔軟に対応している。	1	今後益々利用者間のレベルの差が開いていくことが予想されるので柔軟な対応策が必要になると考える。
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	2	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	週に少なくとも3回は入浴し(男性はひげそりも)身綺麗さを保ち、季節に合った清潔な服を着ることを基本に隔月の訪問理美容サービスで髪を整え、外出時には好みに化粧したりしている。希望があれば洋服や靴、日用品を買いにショッピングセンターまで遠出することもある。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の管理の下、バランスの取れた献立で美味しく栄養ある食事を供している。嗜好やリクエストを聞きながら内容に反映するようにしている。毎月一日の赤飯、誕生会の祝い食、敬老の日の食事会など特別食の他に、日常では、買物、下ごしらえ、配膳、後片付けなど出来る人には職員と一緒に手伝ってもらっている。	1	高齢者であるという思い込みで食事内容を限定するのではなく、ラーメンやピザ、回転すしなど流行の物も進んで取り入れていきたい。
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草は健康と防災の面から禁止しているが、酒の好きな人は敬老会など祝いの席で一献上げることもある。家族から特定のおやつや飲み物の要望があった場合は、ホーム管理にて個別に供している。普段出かけることのない祭りの縁日では賁銭を上げたり買い食いしたりする楽しみがもてるよう対応している。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は極力布パンツか、一部パッド使用程度にとどめ、職員がこまめに観察し必要に応じて声かけや部分介助することで、意識の澄명한間は出来るだけ普通に近しいような排泄方法を維持している。夜間は排泄のサイクルを把握しトイレ誘導またはパッド交換で柔軟に対応している。	1	羞恥心と直結した排泄の問題についてはさらに繊細な思いやりの気持ちを持ち続けたい。
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	楽しみとしての入浴は週2~3回、平日午前中に行い、清潔保持としての入浴は排泄の失敗にともなう汚染に対して昼間はもちろん、早朝深夜を問わず即座にシャワー浴や半身浴を行い常に清潔で気持ちのよい身体状態を維持するようにしている。職員の合理的な機動性を多とせず、一概に気ままな入浴を受け入れるのが最良とする感覚は独善である。	0	本質問事項の妥当性は何をもって担保されるのか。疑義を呈する。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	「人の雰囲気のある場所」の心地よさを求めてなの か、日中居室にこもることは稀で、皆のいるリビング ルームに集うては体を休めたり転寝したりして過ごす ことが多い。夜間寝不足だったり体調不良のときは居 室での安静を勧めている。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	2	
		61 外部 評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	客観的には認知症でも主観的世界ではれっきとした生活 者で、厳格なプライドに支えられているのが個人で あるという認識から、興味(家事、趣味、信仰など) や思い出(歌、アルバム、故郷など)に働きかけてい る。般若心経を唱えたり、カルタ遊びでことわざ遊び をしたりしている。	1	若い職員と高齢の利用者が楽しみを共有できるレク レーションを工夫していきたい。
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	神社を参拝するときは賽銭をあらかじめ預り金から少 額を出したり、個人用のティッシュを買うときは手持 ちの小遣いから払ったりと出来るだけ在宅時のような 日常生活の場面でお金のやり取りを体験できるように 演出している。	0	
		63 外部 評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援している	急に買物や散歩、ドライブなどに出かけられるように あえて事前の計画は最小限に留めるようにしておき、 気分次第ではドライブしたり近くを散歩したりして気 候の良い時分にはなるべく外の空気に触れるように働 きかけている。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは 他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出や外食の希望にはなるべく添えるように状態のレ ベルにあった「お出かけマップ」を事前にリストアッ プしておき、周辺地理、トイレ、時間とルートなどに 合わせて好みのところに行けるように候補地を複数ス トックしている。	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができ るように支援をしている	家族からいつも電話やお見舞いをもらうだけでなく、 状況を見ながらときに電話や手紙のやり取りをするこ とで家族との交流を維持するようにしている。	1	手紙のやり取りができる利用者が限定されているが今 後も取り組んでいきたい。電話はかえって家族が迷惑 する場合もあるので慎重に対応していきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	月平均30名以上の面会者があり、満遍なく家族が尋ねてくれているのは利用者本人への何よりの慰めとなっている。近くの肉親はもとより、遠方からも帰省時に三世代での訪問もある。敬老祝賀会には家族も招待し会食をとにもしてもらっている。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価8項目・外部評価2項目	5	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法令上はもちろん道義的に許されないことで、モノによるもの、言葉によるもの、薬によるもの、いずれも拘束に当たるとの認識を徹底している。拘束や抑制により作業効率的に処するよりも、巡回をこまめにする、複数のスタッフが当たる等、時間と手間をかけて対応するようにしている。	0		
		68 外部評価 29	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には元々錠がなく玄関は自由に入出入りできるように日中施錠していない。面会者の来訪の他に外出、買物、散歩等気ままに(職員付添いにて)玄関から普通に出入りすることを大切にしている。利用者が不穏になり、突発的にエスケープすることが予測される場合は一時的に内扉に施錠することはある。	1	庭先で軽い作業(草むしり、水撒き等)したりお茶を楽しんだりできるような環境をより一層整備したい。	
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は常時徹底する業務の一つで、食堂リビング、居室、浴室、トイレ他全てに眼を配り今どこに誰がいるかを全職員が把握し、転倒等異常発生がないか注意している。とくに夫婦部屋に入室する場合は必ずノックと声かけを欠かさず行い、プライバシーに配慮するようにしている。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗面所の顔用クリームをジュースと誤って飲もうとした利用者がいたのでクリーム類は上段の手の届かない場所に上げるようにし、裁縫の針は開始前後に必ず本数を確認するようにしている。家庭生活には案外危険な物があるので、あえて無菌室的な環境を作るよりも、普通の暮らしを優先し危ないものには個別に対応するようにしている。	0		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険対応のマニュアルは全スタッフが学習し実地に活用できるように常に注意喚起している。利用者について個別に危険状態(転倒、誤嚥、エスケープ等)を想定し対応できるようにしている。冬季のインフルエンザには利用者、職員ともに予防注射を施行し、集団罹患を予防するようにしている。	1	危険対応マニュアルは慣れるにしたがって惰性に流れがちだが、常に臨戦態勢の気持ちで取り組んでいきたい。			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の健康に関して日々のバイタルチェックをもとに正常異常を判断し、急変時は直ちに応急手当や救急連絡できるように常時注意を喚起している。骨折や誤嚥等の重大事故につながる恐れのあるケースについては初期対応か救急依頼かの判断を含めて職員間の意思疎通の徹底を図っている。	1	定期的に応急手当や初期対応の訓練やシミュレーションを行っていききたい。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には生命を最優先し、個別に職員主導で安全に避難する方法を全員で共有するようにしている。地域の人々の協力を得られるようにさらに働きかける必要がある。	1	近隣住民に対してより一層緊密な協力を依頼する体制作りを行っていききたい。
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護計画説明の際に、想定される緊急事態について危険を防止しながらその中で自然な暮らしが出来るよう対応方針を説明している。将来のレベル低下についても忌憚なく話し、出来る範囲の対応策を協議し家族に対して協力や了解を求めている。	1	終末期の対応を含めて、家族も安心して預けられ、かつホームも責任範囲を明確にできるような具体的な対応策をする必要があると考える。
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75～81・外部 31)	自己評価 7 項目・外部評価 1 項目	4	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師の管理者の全人的な健康管理のもと、担当職員が毎朝のバイタルチェックを行い平常時の体調を把握し異常時は直ちに対応するようにしている。急変の際は管理者へ報告し必要に応じてかかりつけ医師に報告、指示を仰ぐ体制を取っている。バイタル記録表（入居者カルテ）と申し送り事項は全職員が把握し利用者の状態観察に役立っている。	1	グループホーム内での看護支援には自ずと限界があるが、可能な範囲で対応が出来るように今後とも取り組んでいきたい。
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の症状に応じた薬の目的と作用を全員が理解し、規定どおり服用したかのチェックは「服薬確認表」に担当者が捺印することで誤薬等の事故を防いでいる。薬の中止や変更があった場合もミーティングや申し送りの中で職員間で遺漏のないように努めている。	1	グループホーム内での看護支援には自ずと限界があるが、可能な範囲で対応が出来るように今後とも取り組んでいきたい。
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士の指導により毎食の献立には繊維質に富む物、消化の良い物を積極的に取り入れ、汁物や飲み物、果物にて水分補給を行い便秘の予防に役立っている。活動の停滞しがちな利用者には歩行や軽い運動をするように働きかけている。毎日の通じの有る無しはバイタル表に記録して出来るだけ自力で自然に排便するよう促している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	アセスメントをもとに口腔ケアに取り組み、食後は歯磨きを励行するとともに義歯の清掃をするよう声かけしている。理解力の低下した利用者には適宜口腔ケアを介助している。	1	全職員が口腔衛生について利用者支援の一環であると思意統一して行動していきたい。
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日24品目摂取を目標に栄養士メニューにより肉魚をバランスよく、野菜類を豊富に、品数を多く、季節の物を取り入れながら、味付けが平凡にならないように和洋中の色々な食事を供するようにしている。嚥下能力に応じて普通食、かゆ食、キザミ等にて対応しながら、「食べる楽しみ」「出来立ての美味しさ」を味わえるよう心がけている。	0	
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症を始め集団生活にともなう疾病に関する情報は全員が閲覧するようにし、冬季のインフルエンザに対しては利用者と職員全員の予防接種の他に手洗い、うがいの励行を徹底している。	1	行政から提供される情報の他に積極的にインターネット等で情報収集に努めたい。
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の衛生管理は掲示や申し送りにて喚起しな板とふきん、包丁の消毒、新鮮安全な食材の調達、買い置き物の適正な管理を徹底している。調理に携わる職員については2ヵ月1回腸内大腸菌の検査（検便）を施行している（これまで全て陰性）。	0	
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)		自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	4	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)		自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	2	
	2 生活の環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日本建築のよさを活かし、利用者が安心して生活がおくれるよう落ち着いたたたずまいと季節の草花、昔ながらの建物の雰囲気を提供している。家族には気軽に訪問してもらえるように玄関先に椅子をもうけ、庭の植栽を見ながら談話できるようにしている。近隣の人にも古くからの建物ということで親しんでもらっている。	0	
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はバリアフリー設計のもと適度の光と音が保たれ、「どこかにいつも誰かが居る」雰囲気を維持するようにしている。季節の花や手作りの壁掛け、料理の音や匂い、唱歌のCD、テレビの料理番組など「普通の家の暮らし」が日常生活の端々に感じられるように工夫している。	1	住居の物理的制限の中で、換気や照明、手すり等今一度生活環境のチェックにとりこんでいきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで思い思いにくつろぎながら、食堂のテーブルでお茶を飲んだり、庭先で日向ぼっこしたり、居室で職員とアルバムを見ておしゃべりしたりとそれぞれ好きなように時間を過ごしている。日中は昼寝以外で居室にこもることは稀で何かしら人の雰囲気のあるところでくつろいでいる。	0		
		85	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に思い出の品、使い慣れた家具等を持ち込むように家族に依頼することあってテレビ、たんす、椅子、壁掛けの他に仏壇や人形、アルバム、経本など様々な品物で居室をより居心地の良い環境へと作り上げている。また壁にはバスバイクや誕生会、面会時の写真を飾っていつでも記憶を思い起こすことができるようにしている。	1	壁掛け写真やアルバムをもっと活用して思い出にあふれる居室作りを検討していきたい。	
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめにやっている	施設にありがちな便臭をなくすため汚物の処理を衛生的に行い、居室や廊下の換気をこまめにすることで普通の家庭の匂い(料理の匂い、入浴剤の匂い等)が自然に流れるようにしている。皆が集うリビングは時間を決めて窓を全開にして空気を入れ替えをしている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価 3 項目	2	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物理的な狭さの制限の中で、廊下や食堂の移動、風呂場やトイレの立ち座りを自力で安全に行えるように手すりバーを高さ、角度、位置を考慮して設置している。居室からトイレまでは2~4メートル、リビングからだと4~6メートルと、無理なく自力で移動できる距離に設置されており、生活の中で自然に歩行訓練が行えるようにしている。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症を自覚していればいるほど混乱や失敗は付き物で、それをあえて欠点と捉えるのではなく、むしろ残された有効な機能に焦点をあて、自己のプライドを保ちながら適度の支援を得ながら自立して生活が送れるように配慮している。	1	日常の言葉かけについて慣れが生じて利用者のプライドを傷つける行為があつてないかもう一度自己点検する必要があると考える。	
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りの庭には、季節の草花、壁に這うツタ、常緑の松などを植え、眼を楽しませるとともに時に応じて草取りや落葉拾いなど軽作業の場にもなっている。天気の良い日は椅子を並べて日光浴するなど、風と太陽に自然に親しめるよう工夫している。	1	家族が庭先で利用者とおしゃべりに興じることの出来るような雰囲気作りにもっと取り組んでいきたい。			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	3		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思 う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足して いると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	該当 番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。